

病院機能評価を再更新します

当院では、2002年より、(財)日本医療機能評価機構が行う「病院医療機能評価」を受審しています。本年度は2回目の更新年となり、書類と訪問による審査を受けました。「病院医療機能評価」とは、各病院が適切な医療体制を維持しているかについて、公的な第三者機関に客観的に評価してもらうものです。

今年は合計3回目の審査になりましたが、鈴木院長以下職員が一丸となって受審に向けた取り組みを行いました。去る3月26日～28日には、審査官が当院を訪問し院内をくまなくチェックする訪問審査を受け、いくつか課題となる指摘を受けたものの、再更新に向け高い評価をいただきました。



サーベイヤー(訪問審査の審査官)の質問に答える、病院管理職員

～ 最善の行動と信頼 ～

医療法人 同和会 千葉病院

【病院概要】

- 診療科
精神科・神経科・神経内科(要予約)・歯科(要予約)
- 院長
鈴木洋文
- 外来診療時間
平日9:00～12:30(月曜日のみ9:30～12:30)
土曜日9:00～12:30(午後は予約制)
- 休診日
木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日(創立記念日)
- 所在地
〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-508
Tel: 047-466-2176 Fax: 047-466-7503
ホームページ: www.chba-hp.on.arena.ne.jp



千葉病院 患者様の権利

- ①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
- ②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
- ③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申し立てることができます。
- ④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
- ⑤職員から思想・信条・宗教および個人的関係は強制されません。
- ⑥個人情報保護されます。

心の健康について一緒に考えましょう。私たちはこれまでの経験を生かして、皆様の身近なところで気軽に相談できる心のクリニックを目指しています。

こころの健康クリニック津田沼

- 所 長: 福井 進
 - 診療科目: 精神科・心療内科
 - 診療時間: 午前9:30～12:00(受付11:30まで)・午後14:00～17:30(受付17:00まで)
 - 休診日: 木曜・日曜・祝祭日・年末年始
 - 住 所: 船橋市前原西2-13-13 大塚ビル4階(JR津田沼駅北口より徒歩2分)
 - 電 話: 047-455-7300 ホームページ: <http://www17.ocn.ne.jp/~mhct>
- 当クリニックではご家族の方の相談に医師・スタッフが対応します。1人で悩まずに、お気軽にご相談ください。

神経内科は脳や脊髄、末梢神経、筋肉の病気を扱います。頭痛、目まい、脳梗塞などをはじめ多彩な神経疾患の症状に悩む多くの方にとって、とても身近な専門領域になります。

神経内科津田沼

- 所 長: 服部 孝道
- 診察医師: 服部 孝道・栗原 照幸・水谷 智彦・湯浅 龍彦・神田 利政
- 診療科目: 神経内科、脳ドック
- 診療時間: 午前9:00～12:00 午後14:00～17:00
- 休診日: 木曜・日曜・祝祭日・年末年始 ホームページ: shinkeinaika-tor.jp/index.html
- 住 所: 船橋市前原西2-14-15 榊原ビル7階(JR津田沼駅北口より徒歩1分)
- 電 話: 047-470-0500 F A X: 047-470-0511

ういんぐ =WING=

千葉病院広報紙 2012. 初夏号(第37号) 発行者 医療法人同和会 千葉病院

あおぞら祭りのご案内

千葉病院初夏のイベント、あおぞら祭りを今年も開催します。初夏の青空のもと、今年は恒例となった焼きそば・ミニゲームを始め、吹奏楽や太鼓などの催し物を予定しているので、是非、ご参加下さい。

日時: 6月9日(土)
会場: 同和会千葉病院 お祭り広場

※雨天の場合、会場が変更になります

写真は昨年のおおぞら祭りの様子

近隣の皆様には、音楽などご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承ください



高根台メンタルクリニック

- 安心、そして安らぎのある暮らしを・・・
 - 所 長: 赤川 和弘
 - 診療科目: 心療内科・精神科・神経科・内科・シルバーケア
 - 診療時間: 午前9:00～12:00(受付11:30まで)・午後14:00～17:00(受付16:30まで)
※初診の方はご予約となります。
 - 休診日: 火曜・日曜・祝祭日・年末年始
 - 住 所: 船橋市高根台1-2-2 プラザ街2F(新成高根公園駅より徒歩2分)
 - 電 話: 047-468-6806 F A X: 047-468-6809
- ※在宅医療にも取り組んでいます。お気軽にご相談ください。

編集後記
日ごとに暑くなってきました。当院初夏の『風物詩』である青空まつりを、今年も行います。今号ではほかにも、千葉病院で最も「患者様、ご家族様」に近い職域である「家族相談室」からの挨拶や、スーパー救急病棟についてのご報告などを掲載しました。ご覧ください。

- 発行: 医療法人同和会 千葉病院
- 発行日: 平成24年5月31日
- 住 所: 千葉県船橋市飯山満町2-508
- TEL: 047-466-2176 Fax: 047-466-7503
- URL: www.chiba-hp.on.arena.ne.jp/

スーパー救急病棟とは

3病棟師長 小山 均

当院では平成24年の秋頃までにスーパー救急病棟の稼動を予定しています。
とは言え、どのあたりがスーパーなのか伝わりにくいと思います。この聞いただけではよくわからないけど何かスーパーな感じがする病棟の説明をさせて頂きます。
このスーパー救急病棟は正式名称を精神科救急入院料病棟と言いましてスーパー救急という呼び方は通称になります。地域における精神科救急医療の基幹的役割を果たす病棟であることから24時間365日患者様を受け入れる病棟で、スピーディーな救急の受け入れと質の高い医療が条件とされています。

そのため認可においてハードルが高いため全国でもまだまだ設置病院が少なく、人員配置・設備・医療水準で高い基準を満たす事が必要とされます。

当院は千葉県の民間病院の中では、さつき台病院、浅井病院、初石病院に続いて第4のスーパー救急病棟となる予定です。この高規格の病棟が身体科の三次救命センターのように全国的に整備されれば、精神科救急医療にとどまらず、わが国の精神科医療全体のレベルアップにつながるものと期待されているのです。

そんな感じでまだまだ一般の方への認知度が低いとは思いますが病棟の職員一同、地域の医療を背負っているという自覚を持ち日々勤務しております。



スーパー救急病棟に向けて意気込む？
精鋭スタッフの面々

千葉病院Drによる医療コラム 第10回

依存症のお話

千葉病院医師 谷渕 由布子

前回はアルコールについて書かせていただきましたが、今回は依存症全般のお話です。

「依存症」ってなんでしょう？ なんとなくイメージはできますよね。おそらくそれで正解です。難しい言葉を使ったきちんとした定義もありますが、ごく簡単に言ってしまうと依存症とは、「あるものにとってもハマってしまっていて、そのせいで自身の健康や社会生活に著しい支障が出ていて、それがわかっているからやめようと思うのに、どうしてもやめられない状態」のことです。

似たような言葉に「中毒」というものがあります。しかし実は、「依存症」とは全然違う意味なのです。

時々、お酒をやめられない人のことを揶揄して「あの人はアル中(アルコール中毒)だ」のような言い方がされますよね。これは間違いです。正しくは、「あの人はアルコール依存症だ」です。

中毒というのは、その物質による精神や身体への害のことです。その物質にハマっていてやめられないということは、一切関係ありません。ヒ素中毒という言葉がありますね。ヒ素入りのカレーを食べて、「あのカレー、また食べたくてしょうがない！」なんて思う人がいるのでしょうか？ おそらく、二度と食べたくないでしょう。ヒ素や一酸化炭素のような「毒物」には、依存しようがありません。ヒ素中毒とは、ヒ素により健康が侵された状態のことです。

ちなみに急性アルコール中毒とは、あまりお酒の飲めない体質の人が無理に飲むことや、飲める人も急速に大量に飲むことで、意識の障害や、嘔吐、頭痛などの身体症状が急に現れた状態のことであり、慢性アルコール中毒とは、長年の飲酒により徐々に健康が侵され、肝硬変や膵炎などをきたした状態のことです。

依存性物質には、違法のものには覚せい剤、大麻、コカインなどがあり、合法のものにはアルコール、ニコチン、カフェインなどがあります。そして重要なことですが、依存性物質には向精神薬も含まれます。向精神薬とは、精神疾患の治療薬全般のことですが、これは合法でもあり、違法でもあります。向精神薬の乱用(用法・用量を守らない服用)や依存、売買などが社会問題となりはじめ、1990年に「麻薬取締法」が、「麻薬及び向精神薬取締法」に代わり、主に睡眠薬、抗不安薬などの80程の向精神薬が規制の対象となり、輸入、輸出、製造、製剤、譲渡が禁止され、向精神薬の取り扱いは、刑事罰を伴う厳格さになりました。

本来、病気の症状を治すための治療薬ですから、その目的で、処方された用法・用量通りに服用することは、全く問題ないどころか、むしろとても大事なことです。しかし、用法・用量を守らない服用や、譲渡や売買は、とても危険なことなのです。

また、物質以外のものへの依存もあります。パチンコや競馬などのギャンブル、インターネット、買い物などの行動上の依存や、人間関係における依存などです。しかし、依存の概念が広がりすぎるのも問題だと思います。健全な嗜癖と病気の、境界線を引くのが難しくなってしまうですね。基本的には上記の定義の通り、「健康や社会生活に著しい障害が出ている」かどうか、境界になります。

家族相談室です

家族相談室 後藤史子

外来の手前にある小さな部屋が『家族相談室』です。
現在、2名常室し、主に“入院手続き”や、外来患者さんの書類の受け渡しをしています

入院手続き

入院の形により、法律にしたがって入院手続きを行っています。
具体的な費用・それに伴い『限度額認定』の制度のご利用をお勧めし、必要な場合はお手伝いをしながら『負担少なく安心して入院して頂けるよう』なるべく分かり易い言葉で説明できるように心がけています。

書類のお預かり～お渡し

『障害年金診断書』(更新時)、『傷病手当』『入院証明』などの書類もお預かりしています。お話の中で専門職の意見が必要な…?と思われる場合は【ケースワーカー】【外来看護師】への橋渡しをすることもあります。

面会票のお渡し

入院中の患者さんのご家族が面会される際、必ずお寄りいただき、面会票をお渡ししています。
何気ない日常会話からご家族の不満や退院後の不安などを伺い知ることができます。ご家族のお話を傾聴し、必要な場合は主治医にお繋ぎします。



お気軽にご相談ください。

私たちは、普段からご家族の立場に身を置き換え。お話を聞けるような雰囲気作りを心がけています。
特に初めて精神科に入院された方のご家族は、相談する場も不安を聞いてもらう場所もなく、自責的になられる方もいらっしゃいます。
話していただけることで少しでも気持ちが楽になっていただけたら幸いです。

外来ホールを歩き来している時も“何でも聞いてください”オーラを出しています…
病院のこと、場所などわからないことがありましたら、声をかけてくださいね！